

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動遊びと療育支援 こどもプラス稲毛教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12 月 15 日		～ 2025年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2024年 12 月 15 日		～ 2025年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 3 月 19 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育による場面展開	集団を動かす上で、子ども達が楽しいと思える活動を取り入れ、達成感が個々に味わえるようにしている。また、静・動の動きの運動により抑制力や集中力などをリズムよく身に付けることができるようにしている。運動の場面展開をスムーズに展開できるように日々、支援者がシュミレーションしながらこどもの前に立っている。	個別対応や集団活動など、その時に意識する目的などが変わるときに、途切れがないように療育にあたる技術があると、こどもたちもより深いところを追及できたり、経験できると思う。そのために、お互いの支援を客観的に見たり、こどもプラス本部の運動研修で学んだことを取り入れるなど日々、療育内容を練っている。
2	気持ちの面での切り替え	保護者からの連絡や受け入れ時の申し送りなどにより、その日のこどもの様子やコンディションを把握した上で、いつもの課題をどの程度行っていくかなど様子を見ながら取り入れていくようにしている。できるだけ、自分の力で切り替えができるように環境を変えたり、まわりの要因をつかいながら、こどもプラスだけでなく、学校や幼稚園、保育園等でも同じように切り替えができるようにしている。	ひとりひとりと向き合う中で、そのこどもの切り替えが必要なタイミングや流れをよく把握しながら、支援の方法が一定になるように、違う支援者が支援に入っても前回の繋がりを持ちながら進められるように情報共有をしている。ただ、一定が必ずしもよしとせず、変化があるものと各々が理解した上で支援に当たる。
3	体幹を強化する運動	柳沢運動療育での基盤になる動き(体幹を強化することで、疲れにくいからだをつくったり、机上での活動がしやすくなるなど)の効果を理解した上で取り入れ、常に意識できるように声を掛けている。また、支持力を強くしていくことで怪我防止や机上での作業がスムーズにいくなどを目的にし、習慣化できるようにしている。	こどもプラスの運動研修動画を見たり、研修を受けたりしながら、専門的な知識を学び、それらを現場と目の前のこどもに落とし込む作業を丁寧に行っていく。また、療育センターの作業療法士の方からの情報提供などにより、いろいろな分野から見たトレーニング方法を学びながら柔軟に落とし込んでいくようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携	なかなかこのような機会を作っていないのが、現状。必要なことではあるが、教室内での運動療育の時間をとったりするとなかなか難しい。また、外部に出ることでの危険のリスクを考えるとなかなか積極的になれない。	外にできることが難しいのであれば、教室内に地域の方を招いて連携をとるなどを考えてもいい。その場合、個人情報気になさる方もいるので、同意を得たり参加・不参加を選択できるようにしながら柔軟に対応する必要があると考える。
2	保育所等訪問	配置の問題などがあり、なかなか体制が取れないのが現状。午前中の時間の利用のかたの需要もあり、動けないので、十分に対応できない。事業所間での連携で、他事業所の様子あがわかるなどあるが、基本となる集団の場での様子を知ることは療育にもプラスになると考える。	関係機関連携をとったりしながら、様子を知りヒントとなるものを見つけたり、いろいろな側面があるなかで予想できない。曜日の調整をして、ゆとりをもち対応できるように意識するなどが考えられる。
3	安全計画についての浸透	情報量が多くなかなか浸透が難しい。会議をする時間が限られてしまう。こども達を迎える準備が優先になってしまうなどの原因が考えられる。	会議の時間をより計画的に入れるように予定を組み、全員が関わることで、浸透に繋がって行くと思う。また、チェック項目についても誰でもわかりやすくできるような表記にするなど、情報料を整理するなどがあるといい。